
2020年3月期第3四半期 決算概要
2020年3月期 業績見通し

2020年1月30日
カシオ計算機株式会社

本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの業績とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2020年3月期 第3四半期 連結決算実績

単位：億円

連結	19年3月期 3Q	20年3月期 3Q	前年比	19年3月期 1-3Q	20年3月期 1-3Q	前年比
売上高	732	737	101%	2,183	2,195	101%
営業利益	77	86	112%	225	253	113%
利益率	10.5%	11.7%		10.3%	11.5%	
経常利益	75	92	123%	219	249	114%
当期純利益	59	65	110%	170	192	113%
1株利益（円）	23.81	26.66		68.92	78.76	

セグメント別実績 売上・営業利益

単位：億円

		連結	19年3月期 3Q	20年3月期 3Q	前年比	19年3月期 1-3Q	20年3月期 1-3Q	前年比
売上高	コンシューマ		642	658	103%	1,878	1,925	102%
	システム		72	66	91%	251	228	91%
	その他		18	13	74%	54	42	77%
	合計		732	737	101%	2,183	2,195	101%
営業利益	コンシューマ		104	118	114%	287	325	113%
	システム		▲9	▲11	-	▲8	▲17	-
	その他		1	0	-	3	2	65%
	調整額		▲19	▲21	-	▲57	▲57	-
	合計		77	86	112%	225	253	113%

時計事業（成長拡大事業）

3Q実績/通期見通し

- 中国のG-SHOCKが上期に引き続き大幅拡大、独身の日におけるECの展開が大きく貢献し好調に推移。（中国前年比+38%）
- Gメタルの新製品等が牽引しG-SHOCK拡大により高収益性維持。

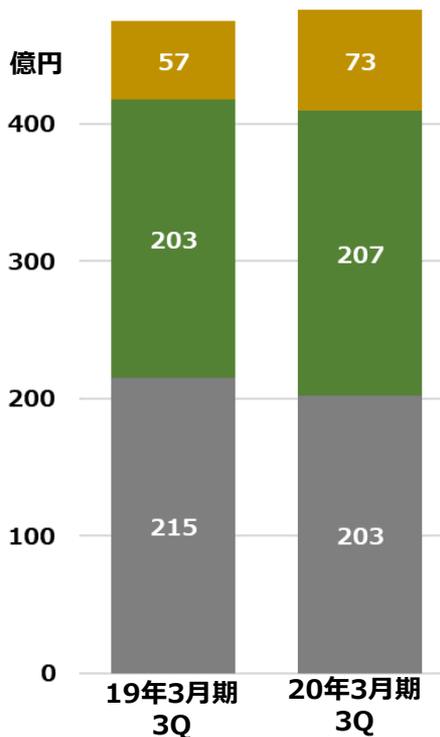
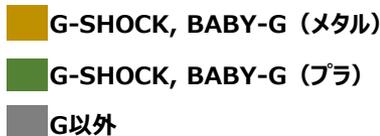
単位：億円

	上期			通期 (計画)
		3Q	下期 (計画)	
売上高	852	483	928	1,780
営業利益率	21%	22%	21%	21%
増収率 (現地通貨ベース)	+4% (+7%)	+2% (+6%)	+3%	+4%

時計事業（成長拡大事業）

3Q実績/通期見通し

【ジャンル別】(円ベース)



■ 3Q売上高：483億円 利益率：22%

(3Q 前年比 2%増収、現通ベース 6%増収)

- ・販売数量、平均単価
- 時計全体:数量+2%、単価 横ばい(円ベース)/+4%(現通ベース)

■ Gメタル拡充によるG-SHOCK拡大継続

19年3月3Q 20年3月3Q

- ・Gメタル売上： 57億円 ⇒ 73億円 対前年 +29%
- ・販売数量、平均単価
- Gメタル:数量+24%、単価+5%(円ベース)/+8%(現通ベース)
- ・Gメタルの好調による拡大
5000シリーズフルメタル『GMW-B5000』が引き続き好調、
3Q新製品カーボンベゼル『MTG-B1000X』(10月発売)好調
- ・200ドル台の若者向け新製品Gメタルラインアップ拡大
3Q：『GM-5600』(9月発売)が好調
4Q：『GM-6900』(2月発売)投入による拡大
- ・プラのG-SHOCK新製品162モデル(通期)投入による拡大
薄型プラの新製品『GA-2100』好調
定番の『GA-110』は黒金カラー中心に好調継続

■ G以外の売上はほぼ横ばい

時計市場縮小と国内の消費増税影響を差別化製品でカバー

- ・EDIFICEの超薄型『EQB-1000』好調継続
- ・OCEANUSの超薄型江戸切子『OCW-S5000D』(10月発売)好調
- ・ノンブランドは防水、長寿命の差別化モデルが安定推移



G-SHOCK
フルメタル
『GMW-B5000』



G-SHOCK
MT-G
カーボンベゼル
『MTG-B1000X』



G-SHOCK
メタル
『GM-5600』



G-SHOCK
メタル
『GM-6900』



G-SHOCK
プラ
『GA-110』



G-SHOCK
プラ薄型
『GA-2100』



OCEANUS
江戸切子
『OCW-S5000D』



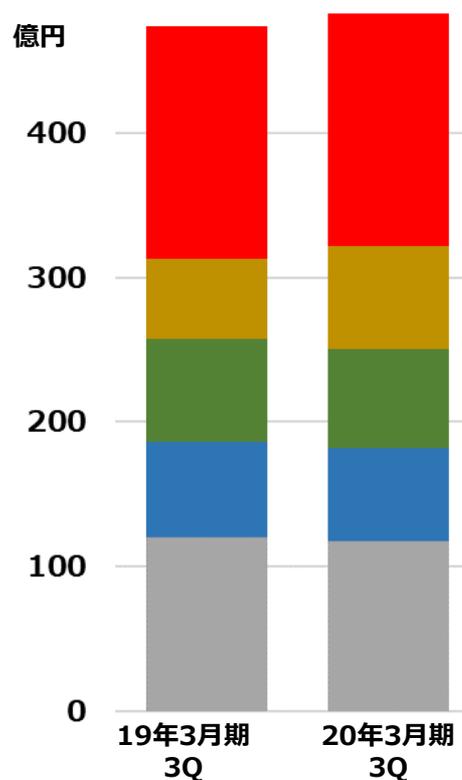
EDIFICE
超薄型
『EQB-1000』

時計事業（成長拡大事業）

3Q実績/通期見通し

【エリア別】（円ベース）

■ 日本 ■ 北米 ■ 欧州 ■ 中国 ■ その他



【エリア別】（前年比:現地通貨ベース）

- 日本（前年比▲2%）
消費増税影響もあり微減
4Qは春商戦でGフルメタル『GMW-B5000』拡販
- 北米（前年比横ばい）
ECとジュエラー好調により、マス流通の時計売場縮小をカバー
4Qは引き続きジュエラー開拓と新製品Gメタル『GM-6900』拡販
- 欧州（前年比+3%）
EC展開拡大により好調
4Qはジュエラー開拓とGフルメタル『GMW-B5000』拡販
- 中国（前年比+38%）
独身の日セールにより大幅拡大、3QのEC売上前年比約1.8倍
2大ECに加え、第3の勢力である『唯品会』等の拡大も貢献
（EC販売比率 50%強）
集客力のあるショッピングモールでイベントを開催し実店舗も好調
G-SHOCK拡大に加え、EDIFICEも好調
4Qも春節とバレンタイン商戦によりECと実店舗で拡大
- その他（前年比+4%）
ベトナム、カンボジア等のASEANを中心に好調持続
中南米、アフリカで対前年で増収
4Qは春節、バレンタイン商戦での拡大と新製品Gメタル『GM-6900』拡販

【EC販売】

- ・全体：EC販売比率の拡大、全体25%超
- ・中国は高い成長を継続、欧州で大幅拡大
 - 中国：大手EC2社の好調に加え、第3の勢力も躍進
3Qの独身の日に続き、4Qのバレンタイン商戦で拡大
 - 欧州：Amazonや自社ECサイトで拡大
 - その他海外：インドのFlipkart、Amazonで好調

教育関数事業戦略（成長拡大事業）

3Q実績/通期見通し

単位：億円

	上期	3Q	下期 (計画)	通期 (計画)
		売上高	240	83
営業利益率	14%	14%	17%	15%
増収率 (現地通貨へ ^レ 入※)	-6% (+2%)	-2% (+2%)	+11%	+1%

※海外子会社での会計基準変更影響除く

<既存事業>

- ・関数電卓：学販重点13カ国（アジアその他地域）で下期伸長
4Qは新興国での国別専用機拡大と新規代理店からの受注拡大
- ・一般電卓：消費税対応モデル拡販により下期対前年でプラス計画
4Qは国内の最大需要期である春商戦で拡大

<新規事業>

- ・北米WEBアプリ事業商談状況
⇒ 試験運営会社6社、電子教科書出版社1社と商談中



ClassWiz
『FX-991EX』

収益改善事業戦略

3Q実績/通期見通し

(電子辞書、楽器、プロジェクター、その他システム等)

単位：億円

	上期	3Q実績/通期見通し		
		3Q	下期 (計画)	通期 (計画)
売上高 (前年実績)	330 (339)	157 (154)	430 (408)	760 (747)
営業利益 (前年実績)	-7 (-10)	-7 (-10)	5 (-3)	-2 (-13)

2Q決算説明時
営業利益 8億円
前回との差額 -10億円

※3Q実績内訳

売上高：電子辞書約13% 楽器約45%
システム約42%(内プロジェクター 約29%)
他電子文具

営業利益：プロジェクター -7億円

<内訳>

プロジェクター・他システム -15億円
楽器 +5億円

収益改善事業の構造改革成果

3Q実績/通期見通し (電子辞書、楽器、プロジェクター、その他システム等)

<構造改革効果の進捗状況>

単位：億円

	上期			下期 (計画)	通期 (計画)	摘要
		3Q	4Q (計画)			
早期退職優遇制度	+2	+2	+2	+4	+6	スタッフ・営業部門
全社経費削減	+1	+1	+2	+3	+4	TV・広告塔等
事業経費削減	+1	+1	+2	+3	+4	販売網の見直しによる販促費削減等
粗利額改善 (前回2Q決算説明)	+1	-2	0	-2 (+8)	-1 (+9)	プロジェクター・SA：競争激化に伴う粗利減 楽器：新モデル部品点数削減等
事業構造改善費用効果	+3	+3	+2	+5	+8	減損計上による減価償却費低減等
米中貿易摩擦影響	—	-1	-1	-2	-2	楽器
開発投資等	-5	-1	-2	-3	-8	
合計 (前回2Q決算説明)	+3	+3	+5	+8 (+18)	+11 (+21)	

電子辞書

- ・4Qにシリーズ初のWi-Fi対応※で手軽にコンテンツを追加可能な新製品の発売（13機種）

※ コンテンツ（別売）のダウンロードのみ可能



『XD-SX4800』
(高校生モデル)



『XD-SX3800』
(小・中学生モデル)

楽器

■ピアノ：Slim&Smartによる売上拡大及び収益構造改善

- ・ミックス改善による収益性向上
- ・売上高物流費比率の改善
- ・販売店舗見直し（実店舗、オンライン）

■キーボード：光ナビゲーションキーボード好調

楽器事業40周年記念スペシャルサイト開設



電子ピアノ Privia
『PX-S1000』

システム

■ プロジェクター

- ・市場競争環境の激化、教育ソリューション（ES）モデルの浸透遅れによる計画未達
⇒ 事業展開について抜本的に見直し中
（小型ハイブリッド光源の強みを生かした新規領域展開等）

■ SA

- ・国内のキャッシュレス補助金需要に対応したレジスターと決済端末の導入推進
- ・フランスの法令レジスター買い控えおよびドイツの法令レジスターの罰則延期により販売計画一部先送り



QRコード決済サービス
対応端末と連動可能
レジスター
『SR-S200』

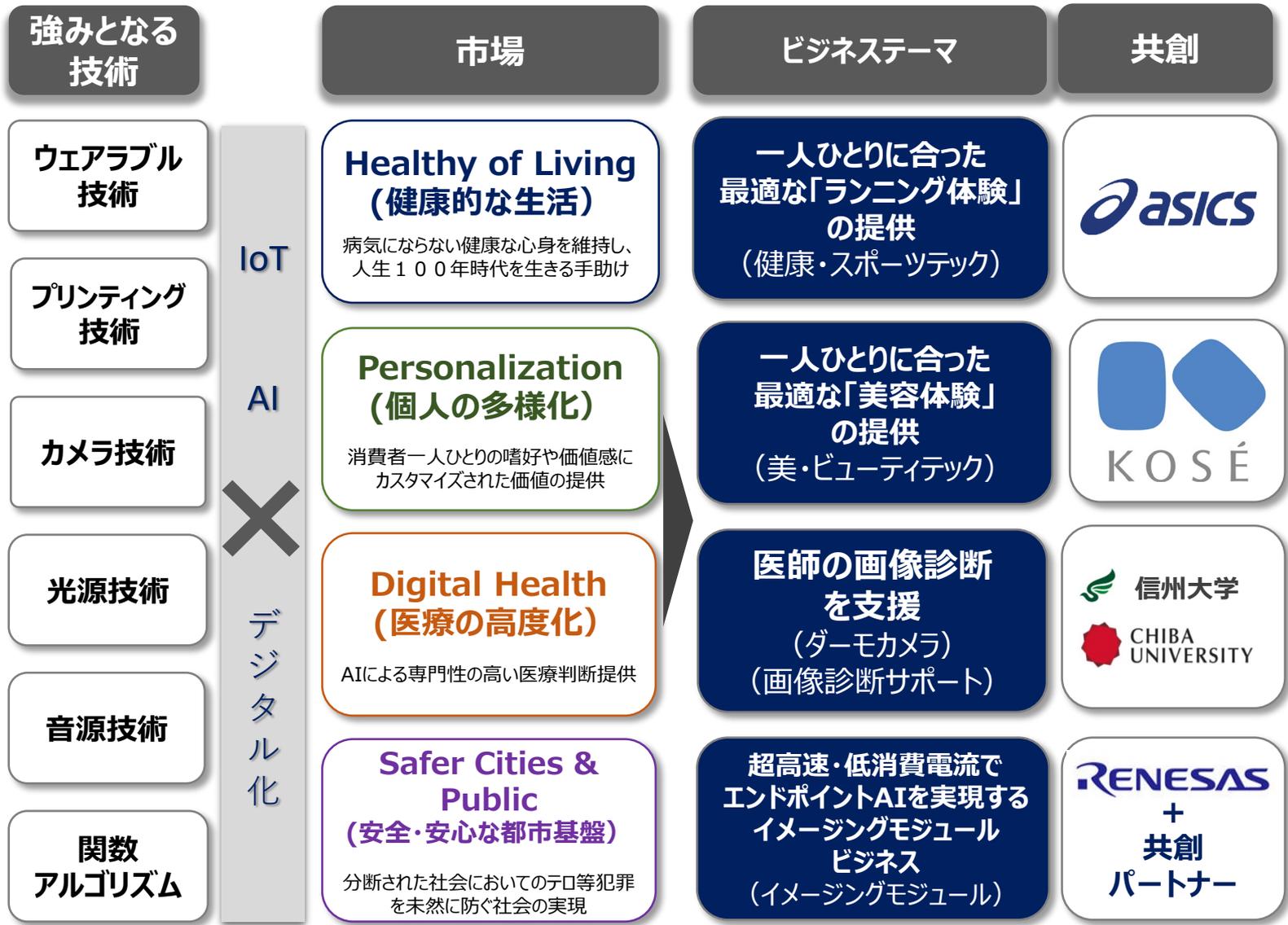
■ PA

- ・Android™ 9を搭載したスキャナ内蔵の薄型、軽量、大画面の新製品ハンディターミナルを投入（12月）



Android™ 9搭載
ハンディターミナル
『ET-L10』

新規事業の創出

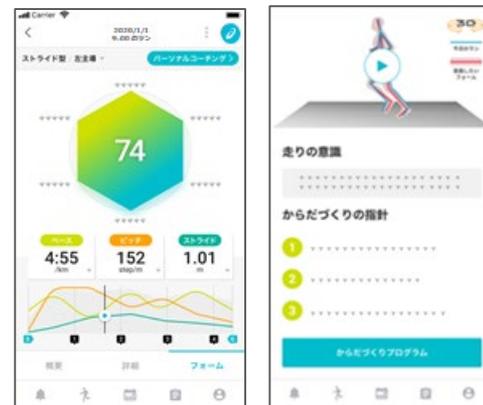


新規事業【スポーツテック事業】



●腰でのセンシングによる
ランニングの運動解析

●ランニングの解析結果を
腕で表示・通知

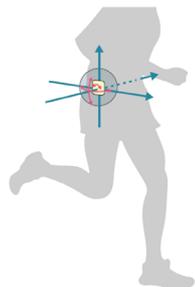


スマートフォンアプリケーション(開発中)

Run & Measurement
いつでも、どこでも

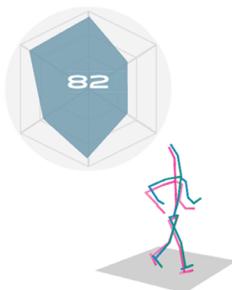
Analysis & Evaluation
走りを可視化

Feedback & Coaching
自分だけのコーチ



GPS・9軸センサ内蔵デバイスが
ランニング中の全てのステップを測定
距離・ペース・ピッチ・ストライドなど
一般的なランニング項目に加えて
フォームに関する20以上の指標を取得

腰に装着した小さなデバイスで
いつでも、どこでも、手軽に
自分の走りをチェックできます。



走行時のセンシングデータから
ランニングフォームを分析、評価
レーダーチャートによる特徴の表示
改善に向けた走りの意識を直感的に
理解しやすい3Dアニメーション

単なる測定データのログではなく
走りの長所と短所を把握し
成長への気づきを提供します。



ランニングフォームの特徴に合ったトレーニング
ポテンシャルを引き出す推奨ベース
「じゃあ、どうすれば？」を提供するために
アシックスのランニングサイエンスが導き出す
自分だけのソリューション

より長く、より速く、より効率的に
自分らしく走り続けたい
そんなランナーを応援します。



— ランナー向けサービスコンテンツをウェアラブルEXPOで初披露 —

第6回 **ウェアラブルEXPO**
ウェアラブル 開発・活用 展

2020/2/12 (水) ~14 (金)
於：東京ビッグサイト

・アシックスブースにおいて共同開発中の新たなランニングサービスを展示

特別講演 2020年2月13日 (木) 15:00-16:30
「ウェアラブルで革新！スポーツ分野における最新活用事例」にて共創案件を紹介予定

新規事業【ビューティテック事業】

CASIO × KOSÉ

ネイルプリンターと関連サービスの事業化に向けて
Maison KOSÉ (銀座) にて2019年12月17日より実証実験開始

パーソナライズされた美容体験提案の場
新しいネイル体験の提供
付加価値サービスの模索研究

Maison KOSÉ (銀座) 外観



1階フロア、2階フロアのコーナーに
合計5台のネイルプリンタ設置

Maison KOSÉ (銀座) 2階



Maison KOSÉ (銀座) 1階



KOSÉブランド
「JILL STUART」「Tarte」との
デザインコラボレーションネイル6種類用意



「JILL STUART」「Tarte」
ネイルデザイン6種類

12月中旬のオープン以降、1000人以上がネイル施術体験
施術後の評価も高く早期事業化へ向けてPoC展開を拡大

新規事業【メディカル事業、イメージングモジュール事業】

メディカル

- ダーモカメラが日経優秀製品・サービス賞2019の日経産業新聞賞を受賞
- 皮膚科・形成外科向け
 - ⇒ ダーモカメラに続き、皮膚観察用の臨床スコープ「ダーモスコープ」を3月発売予定
- A I 皮膚がん診断支援システム
 - ⇒ A M E D(※)補助金交付、A I 診断支援システムの研究開発開始

※日本医療研究開発機構の先進医療機器・システム技術開発プロジェクトに採択

イメージングモジュール

- 超高速／低消費電力でエンドポイントA I を実現するイメージングモジュール
 - ⇒ 2020年度末の事業化に向けファーストサンプル完成

2020年3月期 計画

単位：億円

連結	19年3月期 通期実績	20年3月期 1-3Q 実績	20年3月期 通期計画	前年比
売上高	2,982	2,195	3,100	104%
営業利益	303	253	315	104%
利益率	10.1%	11.5%	10.2%	
経常利益	299	249	310	104%
当期純利益	221	192	225	102%
1株利益 (円)	89.86	78.76	92.41	

2020年3月期 計画 セグメント別売上・営業利益

単位：億円

		連結	19年3月期 実績	20年3月期 1-3Q実績	20年3月期 通期計画	前年比
売上高	コンシューマ		2,574	1,925	2,705	105%
	システム		338	228	315	93%
	その他		70	42	80	115%
	合計		2,982	2,195	3,100	104%
営業利益	コンシューマ		382	325	440	115%
	システム		▲9	▲17	▲15	-
	その他		3	2	0	-
	調整額		▲74	▲57	▲110	-
	合計		303	253	315	104%

為替影響について

為替感応度 (主要通貨)

米ドル
ユーロ
人民元

為替前提 (2020年1月~2020年3月)
108円
118円
15.0円

1円変動による影響額(年間)

売上高	営業利益
10億円	— (※1)
3.5億円	2.5億円
18億円	12億円

※1 ドル円は輸出・輸入がほぼ均衡しており影響軽微

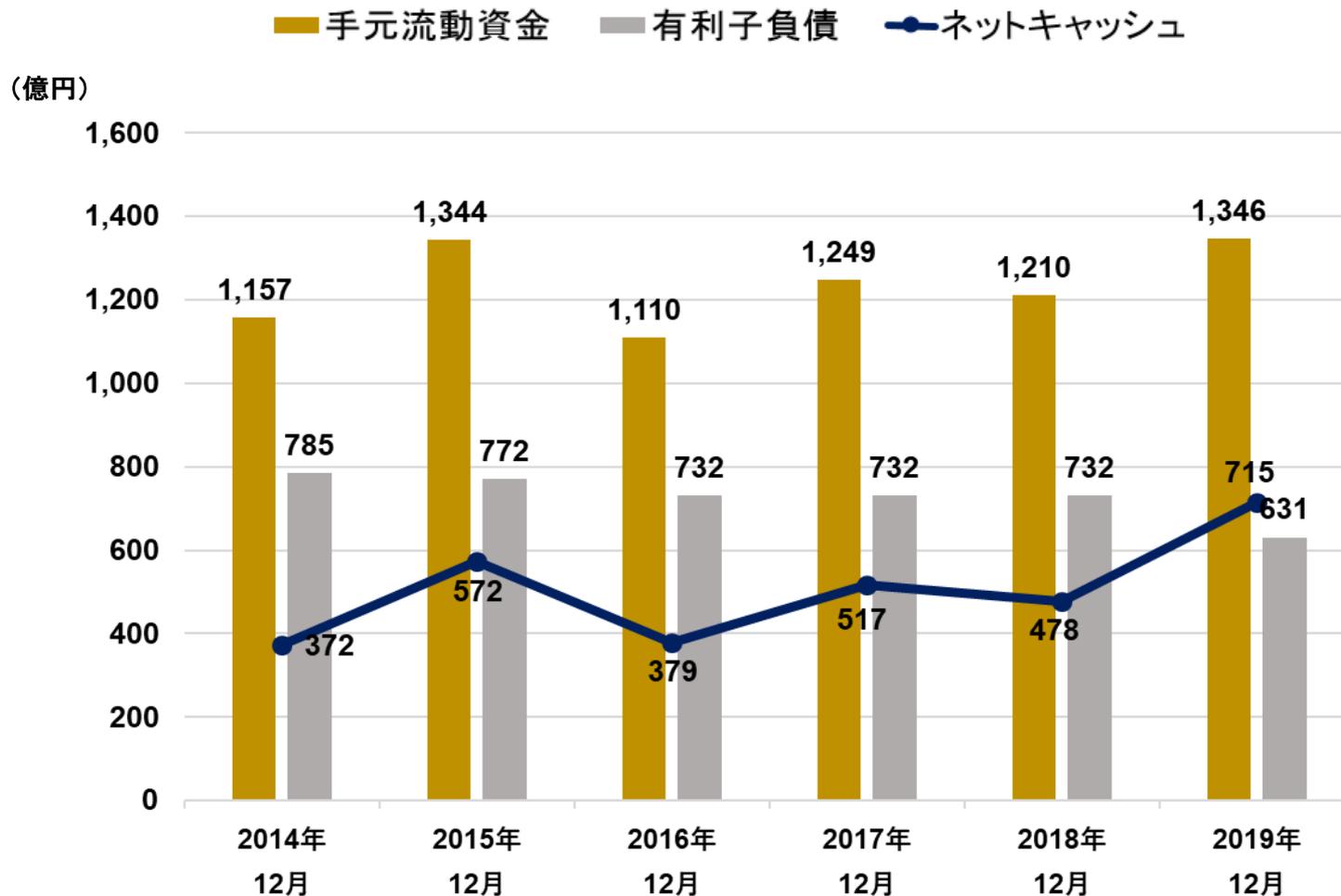
為替レート実績 (前年差)

米ドル
ユーロ
人民元

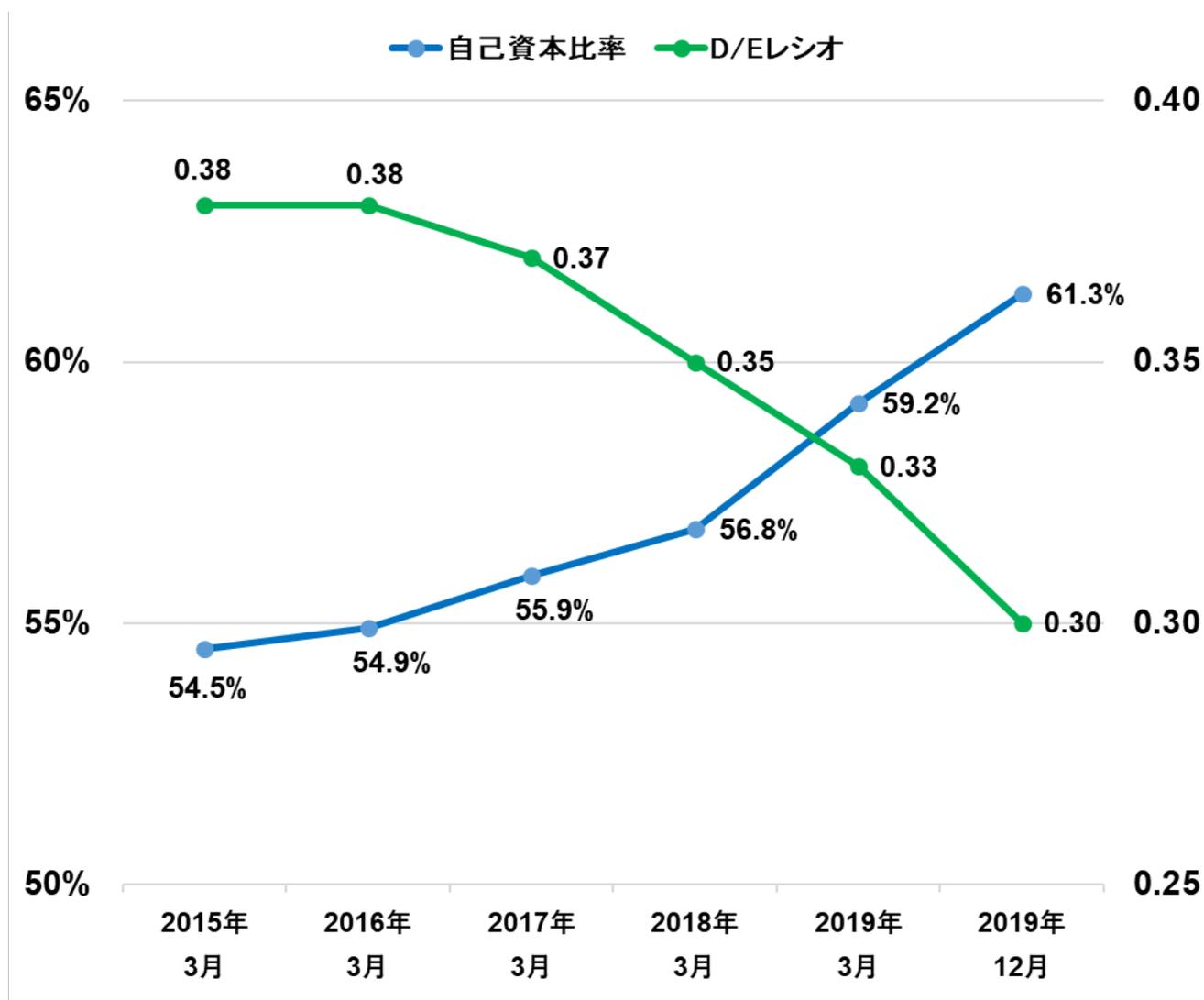
上期
108.6円 (-1.6円)
121.4円 (-8.4円)
15.7円 (-1.1円)

第3四半期
108.8円 (-4.1円)
120.3円 (-8.5円)
15.4円 (-0.9円)

■手元流動資金・有利子負債・ネットキャッシュ(第3四半期対比)



■ 自己資本比率・D/Eレシオ



END